

# 第1学年通信

# 新風

宮崎学園  
中学校  
学年通信  
第6号

## 10月のできごと！

2学期も半分が過ぎ、時間が経つのもあっという間で、もう11月に入りますね。10月を振り返ってみますと、まず、9日～11日にかけて、中間試験がありました。みなさん、一所懸命、日ごろの努力の成果を出すために真剣に取り組んでいました。結果が返ってきて、満足いく結果がとれた人、結果が振るわず悔しい思いをした人もいるでしょう。どんな試験でも大事なのは、「やりなおしを徹底して行う」ことです。なぜなら、定期試験で「間違えた問題＝理解できていない部分」であること、つまりここを苦手から得意に変えることが成績アップへの近道なのです。また、日々の授業で行われる小テストではもちろん合格することが大事ですが、不合格でもしっかりやり直しを行えば、次回の定期試験では成績がアップする可能性が高まります。「未見の我」を求め、がんばりましょう。

## 読書の秋！！～本から学べること～



芸術の秋、食欲の秋と色々ありますが、やはり、「読書の秋」ではないでしょうか。私も読書が好きで、つい先日、磯田道史の『歴史の愉しみ方』という本が面白かったことから、同著者の他の書籍も気になり『日本史の内幕』、『武士の家計簿』『日本人の叡智』という新書を3冊購入し、そのうち1冊は3日で読破してしまいました。それほど読書が好きな私ですが、いつから好きかと言われると、中学生の頃からで、暇さえあれば本を開いているほどの本の虫でした。

そんな中学生の時に出会った本で、私に一番の影響を与えたものが、父が初めて買ってくれた『超速！日本史の流れ』という本でした。実はこの本は高校生向けの参考書だったのですが、日本の先史時代から近現代、外交、文化をシリーズ4冊で、物語のように読むことのできる本でした。この本と出会い、歴史というのは教科書に書かれていることだけではないんだ！ということに気付かされ、歴史を学ぶってなんと面白いことなんだろうと思いました。また、昔生きていた人々の記した本を読むことで、今はもういない人と会話しているような、不思議な気分になり、著者の考え方、その時代に生きた人々の様子など伺い知れて、自分のこれまで見てきたものから、更に視野を広めることができました。

本との出会いによって、それまで自分が思い描いていたおぼろげな将来の夢が「日本の歴史の面白さを、人に伝えたい」という夢、目標へと変わっていきました。そして現在、私はその夢を実現できています。あの本が無ければ、今の自分はないと思います。

皆さんもぜひ、中学生の今の時期に、多くの本を読むことをおすすめします。

